

【開成町「瀬戸屋敷」 民間委託で入館者増 企画力で人気復活 27、28日はホテルまつり】

民間委託で

入館者増

開成町「瀬戸屋敷」

古民家を活用した開成町の観光施設「瀬戸屋敷」の入館者が増えている。4月から指定管理者となった民間企業が様々な企画を打ち出したことが功を奏し、記念イベントを開催した同月の入館者は1652人と過去7年間で最多を記録した。運営会社は、町のキャッチフレーズ「田舎モダン」に合わせ「都会の観光客を呼び込みたい」としている。(丹下信之)



運営が民間に委託されて再び脚光を浴びている瀬戸屋敷(開成町で)

企画力で人気復活

27、28日はホテルまつり

町北部にある瀬戸屋敷。物で、かやぶき母屋や土蔵、江戸時代から地域の名水車小屋などが残る。寄贈「ひなまつり」や「風鈴まつり」会場として使われて

きた。

だが、入館者は減少傾向が続き、昨年度は約3万7800人とピーク時(07年度)の半分以上まで落ち込んだ。このため、町は今年度からコンサルタント会社「オリエンタルコンサルタンツ」(東京都)に運営を委託した。

4月1、2日に開かれた記念イベントでは、かまど炊き体験を行ったりほか、縁日の屋台なども出店。気球への搭乗やタイの三輪タクシー「トゥクトゥク」運行などの物珍しい企画も人気を集め、700人以上が集まったという。

屋敷の母屋は、時間200円から貸し出しており、子育て中の母親の集まりやコスプレの撮り会にも利用されている。企画撮影の舞台になったこともあり、同社で瀬戸屋敷を支配人を務める森隆信さんは「屋敷

が持つポテンシャル(潜在能力)は高い」と期待する。

カフェ 今秋オープン

同社は収益の向上にも取り組んでいる。イベント開催時以外の入館料は無料のため、今秋にオープンするカフェでの物販事業を柱に、屋敷の貸出料の増収も目指している。大型バスの駐車場も整備して団体客を呼び込むことも計画 중이다。

今月27、28日のホテルまつりでは、トゥクトゥクで町内のホテル観賞地を巡るツアーを行う。近隣の「瀬戸酒造店」が酒蔵を再建し、来年1月から約25年ぶりに酒造りを始めることになったため、同店と連携した情報発信も企画しているという。森さんは「町外の人にも『瀬戸屋敷は面白いぞ』と印象づけることで、人気施設に変えていきたい」と意気込んでいる。